

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「短歌・俳句に親しもう（二）」 教材名「短歌・俳句に親しもう（二）」

2 単元の目標

文語調の文章の響きやリズムに親しんで音読することができる。文章から想像した様子や感じたことを言葉を根拠にまとめ、友達と伝え合うことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文語調の文章の響きやリズムに親しんで音読している。（〔知識及び技能〕(3)ア）	①「読むこと」において、文章から想像した様子や感じたことを言葉を根拠にまとめ、友達と伝え合っている。（C(1)力）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

古典や文語調の文章を声に出し、現代の話し方と異なる響きやリズムを味わう。現代語訳の暗記や作品名当てに偏らない。学習指導要領のC(1)力を中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(3)アを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

教師が教科書の実際の文章を範読し、意味を確かめる必要のある語だけを補う。配布物には本文を転載せず、児童は自分の教科書で区切りの候補を確かめる。おおむね満足できる状況は、文章から想像した様子や感じたことを言葉を根拠にまとめ、友達と伝え合っているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○範読を聞いて言葉の響きを確かめる。必要な語の意味と情景を話す。区切りや強弱を変えて読む。伝わった様子と読み方の関係を比べる。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

文章から想像した様子や感じたことを言葉を根拠にまとめ、友達と伝え合うことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	使う教材を確かめ、今日比べる言葉や表現への自分の考えを短く書く。 ○「どこで区切り、どの言葉を響かせると、様子が伝わりますか」 【めあて】古典や文語調の文章を声に出し、現代の話し方と異なる響きやリズムを味わう。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ速さで読むより区切りがあると聞きやすい。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「どこで区切り、どの言葉を響かせると、様子が伝わりますか」 範読を聞いて言葉の響きを確かめる。必要な語の意味と情景を話す。区切りや強弱を変えて読む。伝わった様子と読み方の関係を比べる。 区切りや響かせたい言葉のメモと、その読み方にした理由。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ速さで読むより区切りがあると聞きやすい。 ・今とは違う言い方でも景色が浮かぶ。 ・友達の読み方では別の言葉が印象に残った。	教師が教科書の実際の文章を範読し、意味を確かめる必要のある語だけを補う。配布物には本文を転載せず、児童は自分の教科書で区切りの候補を確かめる。 想定するつまずき：音数を数えるだけで情景を考えない、意味不明のまま音だけをまねる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 文章から想像した様子や感じたことを言葉を根拠にまとめ、友達と伝え合っている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の読み方では別の言葉が印象に残った。	まとめの文を先に与えて写させず、本時に扱った語や自分の例を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。今後の国語学習や日常の読み書きでも、今日確かめたことを使えるよう記録を残す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「どこで区切り、どの言葉を響かせると、様子が伝わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

